

日本の都市の個性を浮きぼりにするための最も有効な方法は、わが国の都市と欧米の都市とをこの点から比較考察することである。なかでも近世城下町がわが国の都市造形の典型といわれ、中世北欧の都市がヨーロッパ型都市の理念型といわれているので、ここではわが国の城下町起源の都市盛岡と北欧中世起源の都市西ドイツのザルムシュタットを取り上げ都市景観の視点から比較検討した。

盛岡の位置は北緯39°41'38"、東経141°9'26"、ガルムシュタットの位置は北緯49°52'21"、東経8°39'25"である。盛岡の方が緯度で10°も南にあるにもかかわらず月別平均気温では最高23.0℃(8月)～最低-2.2℃(1月)/盛岡に対し最高19.5℃(7月)～最低0.9℃(1月)/ガルムシュタットであり盛岡の方が寒暖の差が大きい。年間降水量、年間日照時間は1168.5mm、1945.4hr/盛岡 636mm、1521.9hr/ガルムシュタットとなっており盛岡が年間降水量で1.84倍、年間日照時間で1.28倍となっている。(以上最近5年間の平均値) 盛岡の市域面積は399km²で東部は傾斜4°～12°の丘陵で西部は谷地に広がる田園地帯を経て山地の裾野に接する起伏の多い変化に富んだ地形からなるのに対し、ガルムシュタットの市域面積は122km²でなだらかな傾斜をなす起伏はみられず平坦地(plattenland)と呼ばれている。人口は盛岡が22.9万人、ガルムシュタットが13.4万人であるが都市の性格はきわめて類似している。

都市景観の比較を行う際には、まず市民を通してそれぞれの都市の景観特性が把握されなければならない。ここでは盛岡とタルムシコットの都市景観について視知覚的側面から接近し、景観のパターン化と景観の選好評価および景観評価を行った。その結果をそれぞれ表一および図一に示す。

表-1 景観パターンおよび景観評価

								(係 同)	
(区分)	番組のバージョン	記号	放送	放送局	対象県	札幌	長野/厚	予 算	期 間
ラジオ放送	森田・田嶋・山根放送	A	10	森田市田嶋丘陵地、田嶋	市田嶋と山根、田嶋と山根	近景	側面、水平向	0.25	6 *
	若手山を登山する若手山根と若手山根	B	6	河川、郡誌、丘陵地	若手山と河川、若手山と山根	遠景	側面、水平向	0.91	1
	森田市森田丘陵地	C	7	河川、郡誌	河 川	遠景	側面、水平向	0.75	2
	主要部若手山根放送	Dp	2	新 路	一般道路、道路	中景	水平向	- 0.18	14
都市放送	神奈・福岡・神奈	D1.3	9	新 路	高 速 道	中景	水平向	- 0.18	13
	福岡県放送	D3	4	作田南地区	住宅地	中景	水平向	- 0.17	12
	群馬県放送	E	8	新 路	一般道路	中景	水平向	0.32	8
	都市河川放送	F	6	河川、郡誌	河川、郡誌、パノラマ	中景	水平向	0.54	5
録 音	公民・市議会・放送放送	G	5	公園前、公園	公園放送スポーツ放送	近景	水平向	0.59	4
	市・市議会・放送放送	H	8	市・市議会・放送および放送	市議会放送、放送	中景	側面、水平向	0.68	3
	市議会・放送放送	I	5	市議会・放送および放送	市議会放送	近景	側面、水平向	0.34	7
	市議会・放送放送	J	2	放送局	放送局	中景	側面、水平向	0.24	10
録 音	放送局(市議会放送)	K'	6	放送局	放送局	近景	側面、水平向	0.06	11
	パーソナル放送	L	9			中景	側面、水平向	0.47	5

注：①被検者数成人男404人，直接面接による。②昭和56年11月23日～57年1月20日，調査。
・都市圏・田舎巨魁に対する評価が低くなっていないが，文藝のイメージ評価ではきわめて高い値を示している，写真モデルは，雑誌の掲載数，雑誌の魅力が失われなかったためと考えられる。

(ダルク・シュタット)

区分	施設・パターン	記号	枚数	製品名	片数	用途	積層材	評価係数	単位
都府県 市町村 区町村 支庁 道庁	公園・緑地・森	M	16	公園・緑地・森	公園・緑地・森	中費	水平向	0.84	2
	幹線道路施設	D1	7	新築	一般道路	中費	水平向	- 1.36	12
	補助幹線道路施設	D2	2	新築	一般道路	中費	水平向	- 0.33	10
	区画道路施設	D3a	11	新築	利用地宅	中費	水平向	- 0.79	8
	区画道路施設	D3b	8	新築	中費住宅	中費	垂直向	0.26	4
	区画道路施設	D3c	14	住宅地計画	利用地宅	中費	水平向	0.42	3
	区画道路施設	D3d	4	住宅地計画	道木、利用住宅	中費	水平向	1.01	1
	区画道路施設	D3e	4	新築	利用地宅	中費	垂直向	- 1.13	11
	教育・文化・施設施設	N	5	教育・文化・施設施設	教育・文化・施設施設	中費	水平向	0.15	9
	復興施設	O	2	新築	一般道路	中費	水平向	- 1.41	13
道庁 支庁 市町村	歴史文化施設	K	14	歴史文化施設	歴史文化施設	中費	水平向	- 0.04	7
	教会文化施設	J	7	新築	教会文化施設	中費	垂直向	- 0.15	7
	バーナクル	L	15			中費	垂直向		

注：①被檢者數成人男女67人，直接而接法による。②昭和57年11月20日～58年12月26日，調査。

解析には情報理論および系列カテゴリー法を適用している。

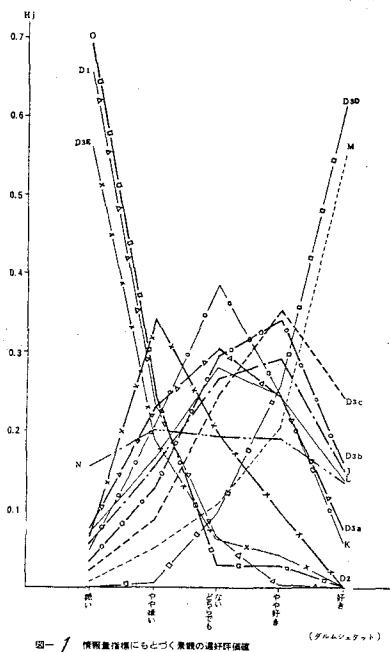
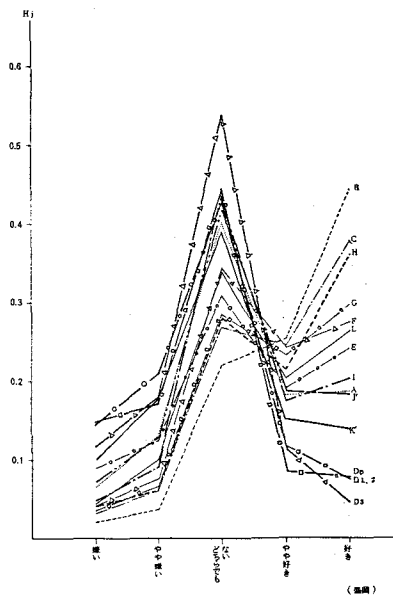
4. 解析結果の比較考察

盛岡・ダルムシュタットとも景観はランドスケープ、都市景観、建築景観に分類され、さらに盛岡では都市俯瞰・田園景観、岩手山を借景とする湖水および河川景観、都市近郊河川景観、主要幹線街路景観、幹線・補助幹線街路景観、区画街路景観、新農、都市河川景観、公園・スポーツ施設景観、在寺・史跡・庭園景観、学校・大学景観、教会景観、建築景観(洋風建築)の13分類に細分され、ダルムシュタットでは公園・緑地・森、幹線街路景観、補助幹線街路景観、区画街路景観(D3a, D3b, D3c, D3d, D3e)、教育・文化・レクリエーション施設景観、推移地帯、歴史的建築景観、教会景観の12分類に細分された。いずれの場合も類型化のできない景観写真があったのでこれをパーソナル景観(個人によって類型化・評価の異なる景観)として1分類として取り扱った。したがって盛岡14分類、ダルムシュタットでは13分類に類型化された。景観パターン、景観の選好評価および景観評価について詳細に検討しそれぞれの都市の特徴的な点を列挙すると次のように示される。

(1)分類のされ方に特徴がみられる。盛岡では「岩手山を借景とする湖水および河川景観」など自然景観に関するグループが公園・スポーツ施設景観を含めると5つある。ダルムシュタットでは自然景観のグループは「公園・緑地・森」の1つだけ。(2)逆にダルムシュタットでは住宅環境に関するグループは「高級・低層住宅」、「低層住宅」、「中層住宅」、「高層住宅」の4つになり、「好き」「嫌い」の評価も「低層住宅」が高く「高層住宅」は低くはつきり分かった。これに対し盛岡では住宅環境のグループは1つしかなく評価も低い。(3)住宅環境と同じように街路景観もダルムシュタットでは「幹線」、「補助幹線」、「区画街路」と分かれ生活に密着した「区画街路」に高い評価が与えられている。盛岡では街路景観は明確に細分できずしかも評価も低い。(4)ダルムシュタットでは商店街が区画街路沿いにあり凝集しているのに対し盛岡では幹線・補助幹線街路に沿って地域の分布をしている。盛岡の商店街に対する評価は低い。(5)盛岡では庭園景観が公園景観のグループに入らず在寺・史跡のグループに入っており、学校・大学景観、境界が独自のパターンをなしていることなどは日本の都市の個性の創出を考えたうえで興味深い。(6)パーソナル景観を分析してみると自然空間・歴史的景観・機能空間をほぼ同じ割合で含まれているものが多い。被験者がどの景観要素に注目したかによって類型化が左右されたものと考えられる。この景観のきわめて評価の高いものは記念碑的景観であるので注目される。(7)盛岡とダルムシュタットの選好評価値を比較するとダルムシュタットでは「好き」「嫌い」がはっきりしているのに対し盛岡ではこのことが不鮮明であることがわかる。都市景観の比較には伝統文化をも配慮しつつ考察しなければならぬ。

5. まとめ ドイツ人は街路や住宅などの人工的な物の写真を細かく分類・評価し分けたいに対し日本人は河川景観や自然風景の写真を細かく分類・評価するなど市民の都市環境に対する関心の持ち方の違いがよくでた興味深い結果となった。

参考文献 1)安藤昭・三上勉・森口勉：イメージ収束法による盛岡市の景観イメージの解析、土木学会東北支部研究発表会講演集、1992年。



図一 情報量指標にもとづく景観の選好評価値 (ダルムシュタット)